別紙1

主な安全対策工事の概要 （適合性審査申請以降に工事量が増加した対策）

■ これまでの新規制規準適合性審査の過程で得られた知見・評価などを適宜反映しながら、設計や工事を進めていることから、申請時の計画よりも工事量が増加している。

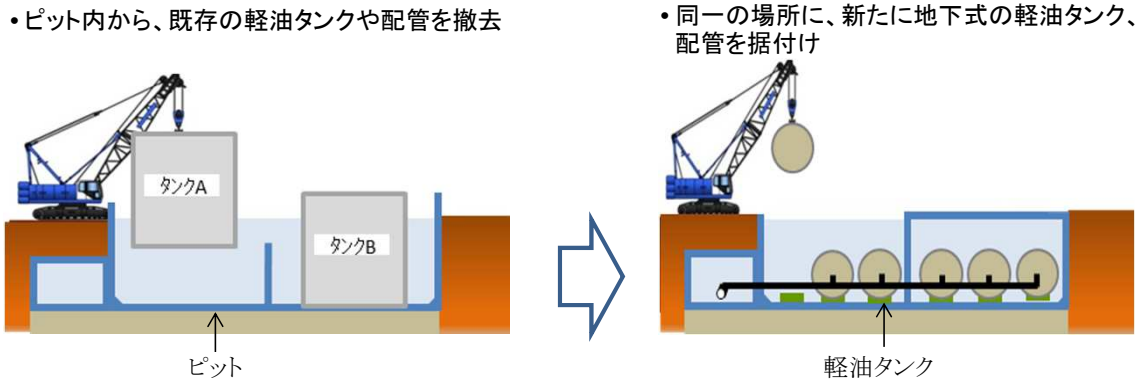
1. 軽油タンク地下化工事（追加対策）

- 軽油タンク※の火災から周囲の重要施設を防護
- 竜巻や火山などの自然現象に対する非常用ディーゼル発電機の信頼性が向上

※ 非常用ディーゼル発電機の燃料を貯蔵する設備

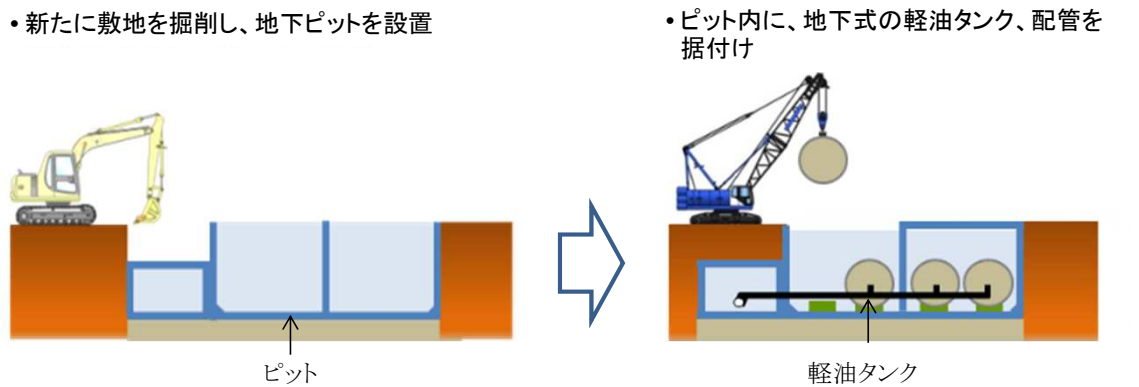
【女川2号機】

- 半地下式の既存の軽油タンク（330kl×2基）を撤去し、同一ピット内（岩着）に軽油タンク（110 kl×6基）を据付け



【東通1号機】

- 海水熱交換器建屋上部にある既存の軽油タンク（350kl×2基）と異なる場所に、新たにピット（岩着）を設け、軽油タンク（180kl×4基）を据付け



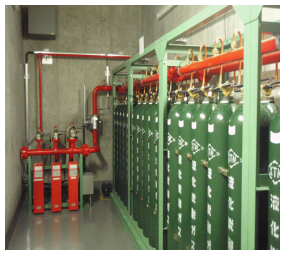
2. 火災防護対策工事（工事量増加）

- 火災の発生防止、早期感知・消火、影響軽減の観点から、火災防護対策を拡充

（主な対策例）
- 火災感知器の多様化
- 自動消火設備の追加設置
- 貫通孔の耐火処理
- ポンプの油漏えい拡大防止　等

［火災の感知・消火対策の例］

火災感知器の多様化



自動消火設備

［参考：新規制基準施行前から実施している対策の例］

絶縁油を使用しないしゃ断器

絶縁油を使用しない乾式の変圧器